社説

古弗氏の新ツベルクリン

近世傳染病の原因續々發見せらるゝに隨ひ其豫防治療の方法は學者間の大問題として種々の研究を經たるにも拘はらず其研究の日月尚ほ久しからざるが故に未だ充分の結果を得る能はずと雖も實際に效を奏して成蹟の見る可きものも亦甚だ少なからず就中實扶垤里亞血清療法の如き最も著しきものにして此勢を以て著々歩を進むるときは古來不治の癈疾として認められたる病症も容易に治療の法を發見し人間社會に慘毒を逞うする各種の傳染病の如きも全く其跡を絶つに至るの望なきに非ず將來の希望多々なる中にも殊に結核症の如き世界萬國に病毒を蔓延せしめ無數の生命を奪するものにして若しも眞實豫防の效を收め治療の術を得るに至らば實に永久不滅の偉動にして子孫万世に恩澤を及ぼす可し東西醫學社會の人々が斯道の最大要務として孜々矻々研究に從事して敢て怠らざる所以なり

抑も結核症の原因たるバクテリヤ即ち結核菌は西暦千八百八十三年の頃、古弗氏の發見したるものにして氏は之を根據として爾後その治療法の研究に倦まざりしが今を距ること六年前彼の所謂ツベルクリンなるものを世に公にしたり是れぞ細菌學否な寧ろ世界醫學の沿革史に特筆大書す可き偉蹟にして其事實は世人の熟知する所なる可し而して其ツベルクリン調製の次第を尋ぬれば佛國の大家パストール氏の發病試驗を誘源として其本源は遠くジエンナール氏の種痘法に出でたるものなり今、或る種の傳染病に罹りたる患者が幸にして全治するときは一定期の間、再び同病に侵さるゝことを免かれ得べし此事實こそ即ち免病の原理にしてジエンナール氏は之を痘瘡の豫防に應用して種痘法を發明しパストール氏は狂犬病その他の豫防治療法を案出せり古弗氏のツベルクリンも亦これに胚胎したるものにして即ち氏は免病の原理を結核に應用して此病に對する免病性を人爲的に同患者に感受せしめんと企てたるに外ならざるなり

扨ツベルクリンの治療上に於ける成蹟如何は專門家の報告に待つの外なし古弗氏自身と雖もツベルクリンを以て結核の治療上、間然する所なきものと認めたるに非ず熱心研究いよ／＼進んでいよ／＼改良を期したる次第なりしに爾來六星霜幾多の研究を經たる結果として茲に新ツベルクリンの調製法を發明したるの報に接し吾輩も新ツベルクリンが結核症の治療劑として果して完全のものなるや否や遽に判斷を下すは大早計たるを免かれざれども凡そ社會事物の進歩には自から順序あり學術の進歩も亦同樣にして一躍直に完全の域に達するは固より望む可らず唯學者の勉强と耐忍とに依り漸次に目的の彼岸に達す可きのみ左れば今回新發明の如きも其[illegible]の如何は他日の實際に讓り兎に角に熱心研究[illegible]從來の[illegible]に更らに一歩を進めたるものとして[illegible]の[illegible]を謝せざるを得ず

[illegible]氏[illegible]新ツベルクリンを案出したる順序を逐ふれば[illegible]ベーリング北里の兩氏が破傷風に血清の抗毒作用を發見したるは是れぞ彼の血清療法發見の濫觴にして近頃に至りてプフアイフエル氏は更らに虎列拉及び腸窒扶斯に於ける血清の作用は殺菌機能に依るの事實を確定したり是に由て之を見れば免病性なるものは決して單純の機能のみに非ず即ち病源たるバクテリヤが人體中に在て生產する毒素に對し其人體をして免病せしむるのみならず或る場合に於ては人體中に在る細菌に直接して殺菌的作用を逞うするを得るものなるを知る可し是に於てか古弗氏謂らく結核症に對する免病性は須らく右兩樣の作用を併有せしめざる可らずとて從來のツベルクリンは單に人體に抗毒的の作用を附與するに止まれども新ツベルクリンは抗毒的作用と殺菌的作用とを人體に與ふるの目的にて遂に研究の效を遂げたるものなり或は之を難じて人體は果して結核症に對する免病性を感受することを得べきや否や結核症に罹りて永く苦しみたる患者を見るに嘗て免病したることなきもの少なからずとの說あれども氏は其非難に答へて曰く人體は優に免病性を感受し得るものなり結核症の治驗に於て其細菌の殆んど全消するに至ることあるは即ち免病したる證據に外ならざれども只常に此免病の現象を認むること能はざる所以のものは畢竟通常の結核症に於ては細菌の所在、重に或局部に限られて體液内に吸收せられず全身の細胞に直接の關係を有することを得ざるが故に隨て全面の免病性を生ぜざるのみ左れば若しも人爲的に結核菌を全身に普及せしめて組織を刺戟し其反應作用として免病性を生ぜしむることを得ば即ち該症治療の目的を達す可しと云へり蓋し古弗の最も苦心したるは結核菌をして體液の爲めに吸收せらる可き物質と爲すの一事なりき本來結核菌は脂肪性の強固なる皮膜を被りて體中に侵入するも永く溶解せざるのみならず熱を加へて其生活力を失はしめたる場合にも皮下に接種すれば尙ほ膿衝を起すものなればなり氏は最初種々の化學的作用を藉りて目的を達せんと試みたれども應用の際に混入する化學劑の爲めに妨害を免れず例へば苛性那篤倫溶液を用ふれば能く細菌を溶解せしむるを得れども人體に注射すれば局部に化膿を發する等到底實際の用に供するものを得ること能はざるにぞ更らに工風を運らして機械的作用に依て始めて目的を達したり其方法は先づ強度の毒力を有する結核菌を培養し其新鮮なるものを採て空虛蒸發器に容れ全く乾燥せしめて直に之を瑪瑙の乳鉢に移し同質の乳棒を用ひて極めて丁寧に細末と爲し斯して得たる細菌の粉末を蒸餾水に混じたる上、强力の遠心機(一分間四千回以上回轉するものにて三十分乃至四十分間絕えず回轉せしむ)を以て震動を與ふるときは透明液と沈澱物とを得べし此透明液は即ち結核菌の溶解したる蒸餾水にして之を名けてO印ツベルクリンと云ふ此O印ツベルクリンは從來のツベルクリンと殆んど同一の作用を有するものなれば之を用ひず更らに其沈澱物を再び乳鉢にて細末として蒸餾水に混じ同じく遠心機の作用を藉りて溶解分を別ち又更らに沈澱物を乳鉢にて擦末して水に溶解せしむ斯くの如く反覆するときは終に結核菌をして全然溶解せしむるを得べし即ち斯くして得たる第二回以後の透明液はR印ツベルクリンと稱するものにして是れぞ古弗氏が今回結核症の新治療劑として世に公にしたるものなり

古弗氏は此新劑を以て動物試驗を行ひ其成蹟の佳良なるを認めたる上、始めて人躰に用ひたり今之れを肺結核症の患者に注入するときは從來のツベルクリンと異にして反應甚だ少なく躰溫の昇騰甚だ微に一時纔に患部の水泡音の增加を聽取するのみにして更らに他に不快なる副作用を認めず注射數回にして既に喀痰量と喀痰中結核菌との減少を現はし水泡音漸く消失して痰の喀出も止むに至る可しと云ふ但し茲に注意す可きは此R印ツベルクリンは如何なる結核患者にも用ふ可きものに非ず躰溫高度即ち他種細菌の混合感染したるもの又は單純の結核症と雖も既に末期に迫りたるもの等には治療の效を見る可らずと云へり

又此R印ツベルクリンは獨り結核症に罹りたる動物及び人躰に用ひて治療の效あるのみならず此新劑を健康なる動物に反覆注射するときは其動物は結核症に對して免病性と爲り斯くて免病したる動物は毒力の最も强き結核菌を接種するも毫も感染することなしと云ふ

右は最近の報道に據て新ツベルクリン新發明の一斑を記したるのみ此新劑が果して完全の治療劑として認む可きものなるや否やは實際の經驗に徵するに非ざれば未だ知る可らずと雖も然れども古弗氏が結核症の治療上に研究の步を進めて更らに一生面を開きたるは非常の功勞にして深く感謝せざるを得ず我輩は此新事實を世間に紹介すると共に斯道の學者がます／＼研究の功を積んで完全の成功を期せんことを希望するものなり

○布哇紀行　第二信

五月六日發　特派員　西師意

海上日誌

四月二十日　便乘を允されたる新聞記者等は孰れも午前十時までに浪速艦に乘込みたるが恰も坪井鎮守府司令長官の臨艦して檢閲しつゝありし最中なりければ暫らく士官室に於て待ち受け居たるに十一時を過ぐる頃梶川副長は便乘者の爲め山崎大尉を掛員に定めたる旨を傳へて同大尉を一同に紹介し更に山崎大尉より艦内の心得方などを指圖せり、纔て午餐を了り予等は甲板の上に出でて出帆の時刻を今や遲しと待ち構へ居りしに午後一時五分、第一横須賀丸は靜々と軍港第一區の方より進み寄り艦の右舷の側に至りて止まりぬ、横須賀丸の艦橋には新井知港事、櫻井鎮守府參謀長を初め鎮守府員等群立し其後部には軍樂隊を載せたり、浪速艦に在りては疾に出港準備の整ひしこととて艦長、副長、航海長、水雷長等は前部艦橋に、軍醫長、主計長等は後部甲板に集り、既にして艦長より出港の號令あり、艦の進行を始むるや在港の諸艦は何れも信號を以て浪速艦の安全なる航海を禱り同時に第十五、第二十の兩水雷艇は左舷の方を驀進して波を蹴破る其勢凄まじく横須賀丸は右舷の方を馳つゝ軍樂隊が奏する告別歌(ロングサイン)の妙に爽かなる無限の響を天外に漲へぬ艦の漸く進んで稍方向を轉ぜんとするや横須賀丸は右より左に廻はり快速なる第十五號水雷艇は今しも進航しつゝある浪速の艦身を一周して宛から月が地球の周を運りつゝ共に太陽の周を行くが如くに並行したる其目覺しさ言ふばかりなし、浪速の壯途を祝して[illegible]や上帝諸[illegible]の[illegible]は蒼天綠波の間に顯はれ灣口を擁す

る遠近の山々は
を過ぎる、艦は
此時、横須賀丸
揭げぬ、此れぞ
表はせるものに
賀丸は「汝の安
速之を受け別に
示して茲に告別
遠く相別れんと
相互の健康を祝
向ふて進み觀音
なりしが夫れよ
の名殘りは愈よ
岬の彷彿として
山の姿も人影
磁石ひとつを
黑き煙ともろ
艦内にては出帆
は嚴に履行せら
驅りて指揮する

○布

五月八日

上陸

●同胞の歡迎●　軍
を以て小蒸汽船
●ーン街の角な
は蟻の如くに群
殊に日本人の我
澤忠三郎、福田
ワヌ街のク●
●來訪者●　上陸後
を訪問するもの
する評說は人々
非の何れを何れ
では充分調査
●官吏
●艦長と米國少將●
軍艦フラデル
を浪速に遣はし
我が艦長は同日
翌六日午前に至
ひ同少將乘艦の
たり
●艦長と公使●　是
問し鳩村公使は
の節、浪速に於
●艦長、外務省を
と共に外務大臣
り、
●秋山參事官●　五
村公使に傳へた
ホテルを旅館
●浪速機關長●　軍
ノル、府に於て
が爲め上陸せり